

トルコ共和国の電力事情

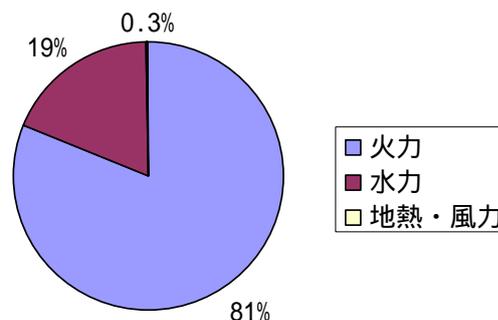
1. トルコ共和国の電気事業の状況

2001年に電力自由化が導入され、自家発電、IPPなどが発電事業に参入できる市場環境が整った。これに伴い、これまで一貫体制であった国営の電気事業は、国営を維持したまま発送配電および、卸、小売部門に分離再編された。国営の発電会社（EUAS）や自由化により参入した自家発電・IPPが発電した電力、及び他国から輸入した電力は、トルコ電力取引契約公社等の国営の卸売電力事業者において売電され、トルコ送電会社の設備を使用し、配電会社に供給されている。

2. 発電設備内訳、需要予測

(1) 発電設備内訳

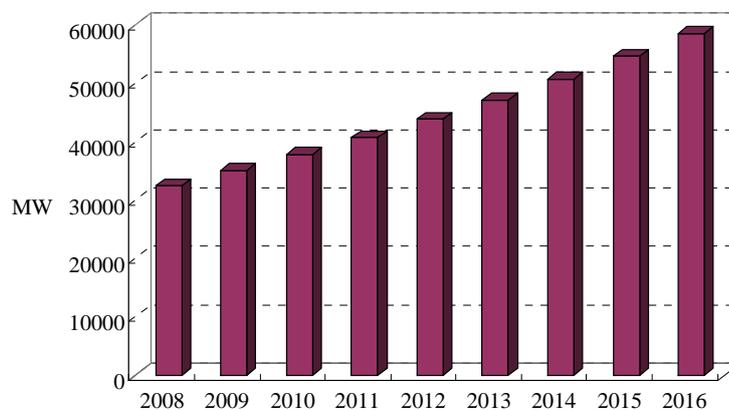
トルコ共和国における発電設備の内訳を以下に示す（2007年）。火力発電が全体の8割を占め、火力発電の燃料については天然ガスが占めるウェイトが高く、全体の半分以上を占める。



出典：TEIAS(Turkish Electricity Transmission Company)ホームページ

(2) 需要予測

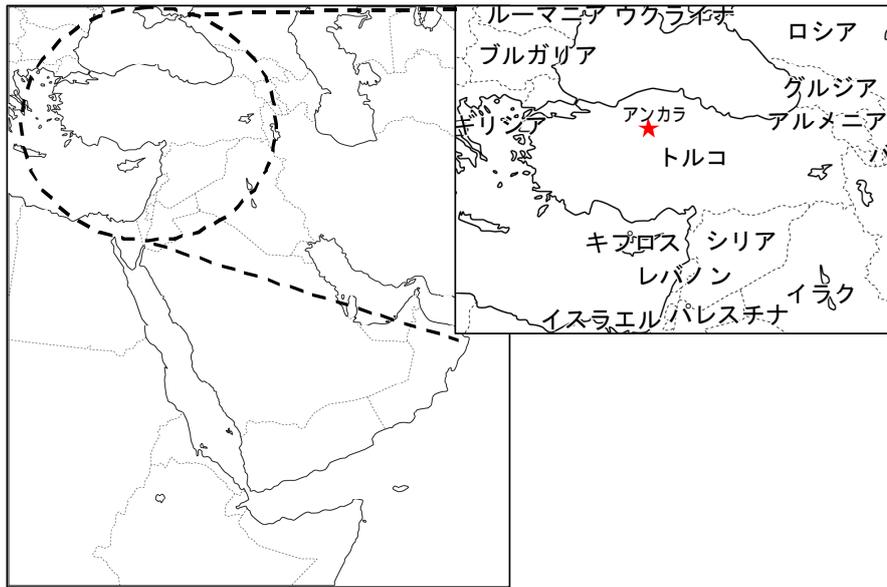
下の図に示すように、トルコ共和国における最大電力需要は、今後年々増加していくと予想されている



2007年のトルコ共和国における総発電設備容量は40,835MW

出典：TEIAS(Turkish Electricity Transmission Company)ホームページ

3 . トルコ共和国の位置



以上